

2025年12月 (No.438)

主な内容とページ

世界経済の中心的な存在になった半導体、2025年回顧	1
わが国半導体輸出、5.8兆円記録更新	2
半導体および製造装置の輸出で10兆円	3
EV市場の成長鈍化と半導体需要悪化	3
米国第一主義	4
活発だったM&A	5
2025年IPOは3件	8
安住せず、真摯に取り組む(SRLだより)	10

世界経済の中心的な存在になった半導体、2025年回顧

今年は半導体がAIブームにけん引され世界経済の中心的な存在になった。

- エヌビディアの時価総額は10月に5兆ドルを突破し、企業として世界トップ、その得意先の世界巨大ICT企業、製造受託ファウンドリのTSMCなど関連企業の評価も高まり、世界経済の中心的な存在となった。
- 最大の焦点は、現在のブームの今後だが、「エヌビディア-TSMC」の組み合わせは強固かつ占有性も高く、競争激化の一方、来年はより明確な成長の路線が描かれるそうだ。
- わが国はAIブームの恩恵は株式市場など除けば限られるが、今後は広く波及、市場拡大につながることが期待される。

安住せず、真摯に取り組む(SRL だより)

半導体と関わって半世紀。良かったことも悪かったこと、いろいろだが、最近は重たい気分を感じる。半導体を含め日本の立ち位置が揺らぎ、世界での存在は GDP 比率並みに減少、他国に抜かれっぱなし。原因は何か、それは複雑だとしても、一つは長期的な視点、取組が影響しているのではないかと思う。

半導体ではメモリで世界 1 位になったが、その後は凋落。携帯電話は、カメラ搭載、ネット接続で世界をリードしたが、やがて「ガラケイ」に。トップの座に安住、やがては到来する変化に対応せず、時代の変化に乗れなかつた。求められているもの、その変化に真摯に向かい合い、取り組んでいただろうか。

半導体メモリ、ガラケイでの例は、一時に慢心せず、常に先をみた活動が求められていたと思う。5 年 10 年の将来像を描き、挑み続ける。これは昨今の政治、経済、社会活動でも共通した面があると思う。さらにわが国に限らず世界的にもその風潮はみられる。SNS 全盛、ポピュリズム(大衆迎合主義)の時代だととしても....。

(大竹 修)

本誌の内容一覧、索引は、SRL ホームページをご利用ください。

<http://www.semiconresearch.co.jp/>

この資料の複写、複製その他電子的な方法等によるいかなる形での複写利用をお断りします。但しオンライン法人契約を除きます。
この資料は公開されている文書および、社会的に信用ある企業、団体等の責任者によって公開された情報を SRL の解釈と分析で表現したものです。 2025 年 版権所有 株式会社 SRL

SRL Monthly Report

2025 年 12 月(毎月 1 回発行)第 36 卷 12 号(通巻 438 号)

発行元: 株式会社 SRL

〒187-0011 東京都 小平市鈴木町 2-865-67

TEL 042(318)7729

編集・発行人/大竹 修

© 株式会社 SRL 2025

SRL Monthly Report

December 2025, No.438

Semicon Research Ltd.

2-865-67 Suzuki-Cho, Kodaira -City, Tokyo 187-0011 Japan

Publisher/Editor Osamu Ohtake

個人利用購読料金 1 年分 12 号 107,800 円(税込み)